



6/18

ホシザキ奨学金授与式及び報告会を挙行



ホシザキ奨学金授与式での記念撮影

ホシザキ奨学金授与式を、豊田講堂第1会議室において挙行了しました。

本奨学金は、ホシザキ株式会社の会長ご夫妻が設立した「坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社」から寄附していただいた株式の配当金を原資として、平成28年度に設立した本学独自の奨学金制度です。「モノづくりを学ぶ将来性のある学生を支援したい」との寄附者のご意向を受け、給付型奨学金として、成績が優秀かつ経

済的に困窮した学生に対して給付するものです。今年度から学部学生、博士前期課程学生に加え、博士後期課程学生も応募の対象となりました。

本年度の奨学生は14名で、授与式では採用通知書が授与されました。

授与式に引き続き、昨年度の奨学生による報告会が行われ、1年間の研究成果を発表しました。

6/19

松尾総長が全学教育科目で講義を実施



講義をする総長

松尾総長が、IB電子情報館大講義室において、「歴史の転換点で大学の果たす役割は何か、名古屋大学で何を学ぶか」と題して講義を行いました。これは全学教育科目「名大の歴史をたどる」の中の1コマで、学部1年生の受講生など約220名が聴講しました。

総長は、大学の歴史から説き起こし、今まさに大変革期にあり、重要課題に満ちた現在の人類社会において大学が果たすべき役割を問いかけた上

で、これに応ずる本学の様々な取り組みについて説明しました。中でも国際化などキャンパスの多様性の実現はその根幹をなすものであり、こうした取り組みを大いに活用し、「勇気ある知識人」として社会に貢献できるように勉強してほしい、と熱心に語りかけました。

この講義の様子は、NUOCW（名大の授業）のインターネットサイトで視聴することができます。

6/21

第7回減災連携研究センターシンポジウムを開催

■減災連携研究センター



パネリストによるディスカッション

第7回減災連携研究センターシンポジウム「濃尾平野の広大な海拔ゼロメートル地帯における防災・減災を考える！」を、減災館1階減災ホールにおいて開催しました。

前半は辻本哲郎名誉教授による基調講演、野田利弘同副センター長、田代 喬同副センター長、平山修久同センター准教授の3名による話題提供があり、風水害、液状化、災害廃棄物等の多様な観点から、海拔ゼロメート

ル地帯における災害リスクについて意見を述べました。後半では、富田孝史環境学研究科教授がコーディネータを務め、6名のパネリストによるディスカッションが行われ、低地帯を守るインフラの維持と強靱化の必要性、伊勢湾台風をはじめとした過去の災害教訓を伝えることの重要性等について共有し、約150名の聴衆は真剣に聞き入っていました。